

コミュニケーション学科 1年

研修・実習先： Spring Abroad・ビクトリア大学

(国名) カナダ

私は、この研修を通して多くのことを学び、多くの経験をすることができた。私が今まで行ってきた英語学習の方法を後悔したのは、カナダに来てから二日目のことである。初めてカナダにあるお店で買い物をしようとした際、正しい単語と文法で注文をしているはずなのに、店員に全く伝わらなかった。私はこれまで英単語の暗記などはしてきたが、実際に自分が話すときに口にする音を意識して学習してこなかったのである。この経験から私に必要な英語学習の一つは、正しい発音で話す練習であると知ることができた。

また、このようにネイティブの英語を実際に聞いたり、それをまねて話したことがなかったためか、授業の話を書くのも一苦労でクラスメイトの英語も聞き取れないことがあった。私のクラスは14人でそのうちの3人が韓国人、1人がスペイン語なまりのある英語を話すスペイン人であった。授業の一環としてディベート対決のようなものがあり、私は韓国人のクラスメイトとスペイン人のクラスメイトとチームになるよう指示があった。それまでは何人かでチームを組まされても必ず日本人がいたので、わからなければ日本人のクラスメイトに内容を説明してもらっていた。どう主張していくか話し合わなければならなかったのだが、私はスペイン人のクラスメイトの英語がどうしてもうまく聞き取れず、最初は二人の話に入っていくことができなかった。しかし、うまく話に入れない私を助けてくれたのが韓国人のクラスメイトである。スペイン人のクラスメイトが言っている内容を英語で分かりやすく説明をしてくれたり、私が書いた英文を添削してくれたのである。英語を聞き取るのが苦手な私はそのクラスメイトの英語でさえ、聞き取れず理解するのが遅かったが諦めずに教えてくれたおかげで私たちの意見はまとまり、無事ディベートを勝利して終わらせることができ、そのクラスメイト達と友人になることができた。英語を英語で通訳してもらい、英語だけで話しあうことは初めての経験だった。英語を話すことによって、違う人種の人と話ができるのだと自分で実際に体験できたことが、私にとってはとても大きな価値のあることであった。

授業のない日はカナダで有名なアイスホッケーの試合観戦をしたり、ホストファミリーと大きなショッピングモールや山と海にハイキングに行ったり充実した休日を過ごすことができた。その国で人気のあるものや文化を知り、実際に街を歩くことで世界は広がり、ホストファミリーと日々共に生活することで、カナダの国の人となりを知り価値観の違いを実感することもできた。他人から聞いただけの知識と、自分で体験して得た知識とは全く違うということがよくわかった。

最初の一週間は慣れないことも多く、長く感じられた。初めての経験ばかりですべてが新鮮で、充実した一ヶ月間であった。目標であったカナダで友人を作ることも達成でき、この研修に参加しなければ出会うことのなかった人たちと出会い、異文化を実際に体験し理解を深めることで、自分の成長に役立てることができた。この経験をこれからの学生生活に活かし、さらに視野を広げ成長していきたい。

私はビクトリアでの短期研修を通して、文化の違いと英語でコミュニケーションが取れることの嬉しさ、難しさを改めて学びました。また、異国の文化を知ることで、日本の良さを再認識すると共に、海外文化の良さも知ることができました。私自身、海外旅行が好きでアメリカには何度か訪れたことがあったため、文化が違う生活への抵抗はありませんでしたが、実際に現地の家で生活し通学してみると、英語を耳で聞き、自分の声で発する回数が圧倒的に違うため、旅行で海外に行くのとはまた違うように感じました。ビクトリアでの生活は良くも悪くも刺激的な毎日で、私が最も驚いた日本との文化の違いは、バスを利用するときにスマホを見ていたり、ベンチにただ座っていたりするとバスが通り過ぎてしまうということです。日本ではバスの時間がしっかり決められていて、時間通りに来て出発することが当たり前ですが、ビクトリアでは数多くのバス停に止まるため、時間が前後することは当たり前でした。そのため、自分のバスが来た時には「乗ります」ということを運転手にわかるように待っていないといけなかったことが、文化の違いを一番感じた出来事でした。

ホームステイ先での生活はとても新鮮でした。私のホストファミリーはマザーひとりの家だったため、二人で話す時間が多くありました。毎日次の日のスケジュールをお互い確認したり、宿題を手伝ってもらったり、夜ご飯のレシピを教えてもらったりと、二人だからこそのコミュニケーションが多く取れていたため、ホームステイ先での生活はとても充実したものになりました。一緒に生活していることで、家のルールや疑問を持ったときに自分から英語で話しかけるため、異国の人と英語でのコミュニケーションにだんだん抵抗がなくなったことを強く感じました。

学校での授業は文法を学ぶ場面もありましたが、基本グループやペアでのディスカッションやワークがほとんどでした。渡航前はディスカッションをすることに苦手意識を持っていましたが、実際に毎日行っていると、自分の言葉を英語で伝えられる嬉しさと、自分の実力を再認識することができ、クラスメイトと話す時間が楽しかったです。うまく伝えられなかったり、相手の話を理解できなかったりと、自信を無くした時もありましたが、他国の生徒とも英語を通してコミュニケーションを取れた時の喜びの方が大きかったため、1日の授業がとてもあっという間でした。

私がビクトリアでの短期研修の経験で得たものは大きかったです。自分の実力を知れたことやこれからの英語に対する取り組み方、異文化理解ができたこと。また、自分にとってつらいと感じた経験も成し遂げたからこそ得た自信が、これからの私の人生に大きな力をもたらすと強く感じました。4週間という短い時間でしたが、毎日が内容の濃い生活を送ることができ、自分を見直すきっかけとなりました。この経験が大学生活の中でできたことを嬉しく思います。

コミュニケーション学科 1年
研修・実習先：Spring Abroad・ビクトリア大学 (国名) カナダ

ビクトリアは留学前に想像していたよりも治安が良く、過ごしやすかったです。ビクトリア大学は広大な敷地面積を持ち、大学内にスターバックスやジム、パブなどがあり驚きました。私が参加した英語のクラスは、毎週英語でのプレゼンテーションやディベートがあり、授業についていくことがとても大変でした。私のクラスは韓国人が3人、日本人が13人の16人のクラスで、私は大学1年生だったので、ほとんどのクラスメートが年上でした。また、休み時間でも日本人同士であっても英語で会話をしていたので、英語漬けの日々でした。

私は自分の意見や考えを発言することが苦手だったのですが、授業ではペアやグループで社会問題について英語で自分の意見を話さなければいけなかったので、1ヶ月後には自分の意見や考えを発言することに苦手意識を持つことがなくなりました。またチーム対抗ディベートでは、私のチームは韓国人と日本人で構成されたチームだったので、事前準備の段階から英語で話し合いをしなければいけなかったことにとても苦労しました。話し合いでは、自分の頭の中で思いついた考えやアイデアを日本語から即興で英語に変換して話さなければいけないことに難しさを感じました。

私は今回の留学で、自分の英語のボキャブラリーが足りないことに気がつきました。カナダでは自分の意見や考えを発言することを求められるので、自分が相手に伝えたいことを日本語から英語に変換して話さなければいけません。その際に多くの英語のボキャブラリーを持っておくことで、自分が伝えたい内容を最大限英語で伝えられるのだと考えました。また、自分の意見を主張することの重要性を今回の留学生活を通して学びました。

カナダと日本での生活では、異なる文化や習慣が多くあることに気がつきました。私が留学中にカナダと日本の文化や習慣に大きく違いがあると感じたことが2つあります。1つ目がカナダに住んでいる人々がとてもフレンドリーだということです。私がティーパーティーやフェアウェルパーティーに参加するためにワンピースやドレスを着ているとバスの運転手の方やバスの乗客、お店の店員さんなどが服装を褒めるために話しかけてくれました。また放課後にダウンタウンのカフェでお茶をしているときやバスに乗っているときに、どこから来たのか話しかけられたり、日本語を勉強している人に話しかけられたことが何度もありました。日本では知らない人の服装を褒めることやカフェやバスで隣に座った人に話しかける習慣がないのでとても驚きました。2つ目はリサイクルに対する積極性の違いです。ホームステイ先の私の部屋にはホストマザーが置いたリサイクルボックスがありました。またゴミの分別も細かく、日本では考えられないほど多くの商品がリサイクルできるように作られていました。カナダはリサイクルに対して日本よりも積極的に取り組んでいるのだと感じました。

今回の留学を通して異文化を理解することの難しさを感じました。カナダと日本では異なる文化や習慣が多いので、日本人が理解しきれないことも多くありました。しかし、お互いの国の文化や習慣を尊重し合うことが平和で豊かな未来を築くことにつながるのだと考えました。